



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 64 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成26年 5月20日

岡村病院
基本理念

私たちは、患者様本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



「センダイヤ ー高知県立牧野植物園にてー」

岡村高雄 院長 写

今月のことば

「 明るい笑顔とやさしい言葉 」

責任のある仕事を一生懸命にやっていると、つい笑顔もやさしい言葉も忘れがちになります。しかし、いつでも明るい笑顔を絶やさず、やさしい言葉をかけ合うように心がけましょう。

患者さまに対しては尚さらです。

明るい笑顔とやさしい言葉は、自分にも元気を与えますし、周囲をも明るく活力あるものにします。

そして「やりがいのある職場」もそんなところから生まれます。

明るい笑顔とやさしい言葉をいつも忘れないで！

(相談役 奥山 貴司)

「くまモン」に学ぶ仕事の極意

院長 岡村 高雄



本年2月の中旬に熊本県で行われた日本心臓血管外科学会総会に発表と勉強の為に出席して来ました。大きな学会では特別講演が常に用意されており、以前は別の学会でノーベル賞受賞直前の山中伸弥教授の講演もお聞きしましたし、著明な文化人の講演も多く行われています。学会での特別講演は学会の目玉の一つで、期待をしている医師も多々います。今回は熊本県庁くまもとブランド推進課課長・成尾雅貴さんの「くまモン」のお話であり、また、心臓血管外科医が全員集う、会員懇親会にも「くまモン」が出席すると聞いて、違和感を持っていました。更に「くまモン」は子供の為に酒席には基本的に出席は出来ず、懇親会の始めに出てきて直ぐに帰る予定と聞いていましたので、何故「くまモン」でなくてはならないのかと思い、正直に申し上げると講演に期待をしていませんでしたが、成尾雅貴課長の「くまモン」の出生に関する講演をお聞きして大変興味が湧いてきました。既にネット等で「くまモン」に関して多数の内容が掲載されており、多くの方がご承知と思いますが、簡単にお話を書かせて頂きます。

2011年の九州旅客鉄道（JR九州）九州新幹線全面開業へ向けて、熊本県は熊本駅が終着駅にならないため、通過駅として扱われることに対して危機感を抱き、この為に天草市出身の脚本家・小山薫堂氏に依頼をして熊本県活性化の為に運動を展開する事となりました。

小山氏は「くまもとサプライズ」運動を提唱し、友人であるアートディレクター・水野学氏に「くまもとサプライズ」ロゴデザインを依頼したのでした。ロゴデザインとは「くまもとサプライズ」の文字を基本的にどの様

にするか、字の大きさ、配列、書体等の検討を依頼したのでした。しかし、水野氏はいっと効果的にアピールできる方法があると考えて、キャラクターの展開を提案し、ロゴデザインの端に「くまモン」の図案を付けて熊本県に提案をしたのでした。「くまモン」の図案は目の大きさ、口の大きさ、赤いほっぺの大きさやこれらの位置を細かく変えて、数千の図案を作成し、最後に選んだ作品が現在我々が目にしていく「くまモン」です。その後、熊本県の蒲島知事の決断により、その提案を受け入れて世界中にアピールをしています。現在ではミッキーマウス、ハローキティと並ぼうとしている大ヒットキャラクターとなっています。会員懇親会の始めには「くまモン」が登場し、くまモン体操を披露しましたが、この体操が非常に切れのある、可愛い体操で思わず見とれてしまいました。最後は何とか「くまモン」と一緒に写真を撮ることが出来ました。



熊本県庁くまもとブランド推進課課長・成尾雅貴さんは講演の中で水野氏は「くまモン」を頼まれて作製した訳ではありません。ロゴを依頼されただけにも関わらず、依頼された以上の仕事、内容を相手に返す姿勢が今日の「くまモン」の由来であり、その仕事内容に敬

服しましたと話されていました。他の人々に感動を与え、信頼を勝ち取るには、予想される以上の内容を伴った仕事をする事の大切さをあらためて教えてくださいました。我々は常に患者様や多くの方々の期待を担って、診断、治療にあたっています。しかし、期待以上の

内容を持ってお答えしているか常に自問自答し、100%以上の結果をもたらす様に努力する必要があると考えさせられました。最後に「くまモン」は今年から部長に就任し、熊本県庁くまもとブランド推進課課長・成尾雅貴さんより出世をしています。

変形性膝関節症について

副院長 整形外科医長 谷 吉彦



年をとると体の色々な組織に老化現象がみられますが、関節はもちろんその例外ではありません。変形性関節症は関節の老化に伴う変性変化を基盤として起こる代表的な疾患です。関節は骨と、その表面を覆う軟骨および滑膜や関節包などの周辺組織からなります。軟骨は骨と骨との摩擦を少なくし、滑りを良くするのが働きです。しかし、老化やその他の原因により、この軟骨に変性が生じると、軟骨が用をなさなくなるばかりか、骨や周辺組織にまで変化が及んでしまいます。変形性膝関節症の発症は単一の原因ではなく、加齢、荷重などの機械的要因、全身的遺伝的要因、関節局所の要因などが関与するといわれ原因によって一次性と二次性に分けられます。一次性は原因が明らかでないもので、二次性は外傷、炎症性疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、先天性または骨系統疾患、腫瘍などに続発するものであります。軟骨では、20歳代を過ぎるとすでに変性が始まり、60歳を越すと膝、肘、股関節は80%以上の高頻度で何らかの変化をきたします。しかし、みな変形性関節症の強い症状をあらわすわけではありません。老化現象は環境や遺伝などにより大きな個人差があり、またそれは体内の組織や臓器によっても違います。若い頃から関節に過度な負担

が加わり、絶えず外傷にさらされていると、年齢とはかかわりなく、すでに20代でも変形性関節症が起こります。また、手足を酷使用する職業や肥満、更年期後のホルモンの変動、体質なども誘因として考えられます。治療は保存療法か手術療法に分けられます。保存療法としては、筋力強化訓練、可動域訓練、歩行訓練、物理療法などの理学療法があり、外用薬、内服薬、坐薬、関節内注射などの薬物療法、サポーター、足底板、ひざ装具、杖などの装具療法があります。手術療法として関節鏡視下手術、高位脛骨骨切術、人工関節置換術などがあります。

Q&A

1. ヒアルロン酸の関節内注射は？

ヒアルロン酸は関節内で骨の動きを滑らかにしたり、クッションのように衝撃を緩和させる働きをする関節液の主成分です。その関節内注射で、炎症をやわらげることで、膝の痛みを軽減します。

2. 膝の水は抜いたほうがいいのか？

水が溜まると、膝が腫れて曲げのばしがつらくなり、炎症も治りにくくなるので、溜まっている水の量が多い場合には抜く必要があります。

3. 水を抜くと癖になるのでは？

水を抜くから溜まるのではなく、炎症があるから溜まるのです。

治療をして炎症が治まれば水も溜まらなくなります。

***膝関節痛でお悩みの方は気軽に整形外科を受診してください。**

Japan Endovascular Treatment Conference2014

～40年ぶりの風雪の東京にて～

臨床検査室 浜田 佐智子

2月14日（金）・15日（土）・16日（日）と3日間の日程でJET2014（表題の学会）に参加しました。先進のJPIC（大阪）より参加し始めてもう6～7年皆勤賞となっています。その歴史の中には、東北大震災が起これり中止になった年もあれば、去年はファカルティ（実行委員）に任命され、エコーハンズオン講師やコメディカル教育セミナーに西村先生と参加したりと、責務の重い年もありました。



優秀作品を囲む浜田検査技師長、岡村院長、廣地放射線技師長、西村先生（左から）

今年、ヒルトン東京（新宿）で開催されました。40年ぶりの歴史的な大雪の中欠航も危ぶまれましたが、空路とリムジンバスで無事予定通り到着しました。初日の午後1は岡村院長先生の一般演題を聞き、すぐ上階のポスター展を見に行きました。放射線科の全3人がポスター展に応募していたので、ドキドキものでしたが廣地技師長さんの作品が見事「横井賞」（学会長）優秀賞に輝いていました。外の荒天風雪とは裏腹に順風

満帆のスタートを切り、その後も院長先生のコメンテーターのEVT（末梢血管内治療）LIVEを見学したり、翌日には西村先生の一般演題や、院長先生のコメディカル教育セミナーに参加しました。

最終日には、朝一番で自分の一般演題の発表を無事終了して上階の「エコーハンズオン」に参加しました。下肢動脈・下肢静脈・腎動脈・エコーガイド下EVTの4種類ありました。

エコーガイド下EVTのハンズオンに事前予約したのですが、直ぐ定員に達しており断られていましたが、菊菜記念病院の技師でしたので、顔パスさせて頂き、良くできた下腿模型（大根のようだった）にエコープローブをあてると血管が描出され、Drが実際にカテーテルを通して行くのを体験しました。不人気の腎動脈にも参加したり、最終日の半日がやっと自分のフィールドに来た落ち着いた気持ちで楽しく過ごせました。そして、何と云っても昨年当院の下肢エコー研修に来ていた香川済生会病院の技師2人がこのハンズオンに参加しており、思いがけず再会できたことも本当に嬉しかったです。

毎年参加させて頂き感謝の気持ちと共に、学会関係スタッフの皆様お疲れ様でした。

最後に、風雪の中、西村先生に携帯電話でせっかく記念にと写真を撮ってもらったのに撮れておらず、帰りの飛行機でのそれ



香川済生会病院技師、浜田検査技師長、菊菜記念病院技師（左から）

についての会話で締めくくらせていただきます。

浜「先生せっかくの風雪の写真が撮れてなかったやんかー！！もうどうしてくれるー！」

西「また、40年後に腰が曲がって一緒に来よう～！その時は、ちゃんと撮るわ！」

浜「……………」

「続ける」ということ

～ソチオリンピックの浅田真央選手を見て～

医事課 籠尾 僚乃

平成26年2月23日、約2週間にわたって開催された「冬季オリンピック・ソチ大会」が閉幕を迎えました。この大会で、私が注目していたのはフィギュアスケートでした。特に女子のシングルに出場していた浅田真央選手は、私が以前から最も応援している選手です。

浅田選手は、大会前のインタビューで、「この4年間練習してきたことの集大成として、やりきったと思える演技がしたい」と話しており、この大会に出場する女子シングル選手で誰一人挑戦したことのない、トリプルアクセルを含むすべての種類の3回転ジャンプを8回飛ぶことを目標としていました。インタビュアーから、自分の演技をとおしてファンに何を伝えたいかと問われた浅田選手が、「続けていればできるということを伝えたい」と答えていた場面が印象に残っています。

そうして迎えた2月20日のショートプログラムで、浅田選手はトリプルアクセルで転倒し、さらにコンビネーションジャンプにも失敗してしまい、得点は他のトップ選手から大きく離され、16位と非常にショックな結果となってしまいました。とてもメ

ダルには届かない順位に、テレビの前の私も言葉が出ませんでした。浅田選手の4年間の努力は、報われずに終わってしまうのだろうかと思ったからです。

しかし、翌日のフリープログラムで、浅田選手は前日の転倒が嘘のようにすばらしく、力強い演技を見せてくれました。すべてのジャンプを飛び、スピンやステップもミスすることなく、4分間のプログラムを滑り終えた浅田選手は涙を堪えきれないようでした。メダルには届きませんでした。浅田選手自身が目標としていた演技ができたからでしょう。その姿に、私も涙が止まりませんでした。

挑戦し続けることや練習し続けることは、必ず実を結ぶとは限りません。それは、スポーツに限らず、仕事や勉強においても同じだと思います。これまで、私にとって「続ける」ということは簡単ではありませんでした。けれど、浅田選手の演技を見て、何事においても「続ける」ことは自分自身を強くするために決して無駄にはならないのだと感じました。私も浅田選手のように、失敗しても諦めず「続ける」勇気を持ちたいと思います。

“営業中 寝よったら起こしてよ” お孫さん手作りの看板の文字が店の真ん中で笑っている。

岡村病院の1階、受付からすぐ左手に入ると畳3枚分ほどのお店「宮崎商店」がある。お菓子や飲み物、またティッシュや歯磨き粉などの入院生活に必要な備品が小さなスペースに詰まっている。そして、ほかの病院にはあまりないであろう、ひと盛りいくらと書かれた果物たち。初夏になれば小夏、冬はイチゴ、それらはみな市場から買い付けたものだ。そう言えば時々きゅうりやピーマンがあったりしたねと言うと、「おんちゃんが生きちゅう時は椎茸やら筍も置いたりしよったわね。季節の野菜を置きたかったと。ほんで家の店に卸すのと同じのをこっちへも持ってきよったわね」おばちゃんが笑う。

主は宮崎善子さん(86)。昭和58年頃、岡村病院に出入りしていた人の紹介でここに売店として店を構えることになった。以来30年余り、1年前に亡くなられたご主人の雅行さんと共にここで沢山の患者さんや職員と関わってきた。「まだ前の院長先生が診察しよった頃よ。今の院長先生も帰ってきてないし谷先生もまだおらんかった。薬局のところは前は診察室、この西側のエレベーターのところは前にお店があったところで、階段のところまでお店やった。その階段の裏、斜めになったところで荷物を抱えよってぎゅっちり頭を打ったわね。」へえ、と職員も知らぬ岡村病院の歴史がつつらと出てくる。まさに生き字引だ。

おばちゃんの朝は早い。「手が遅うなったとき、着替えるのに時間がかかる」らしいが、朝は4:30に起床、準備をして出勤し7:30には店が開いている。職員が出勤する頃には



馴染みの患者さんといつものおしゃべりを交わしながら「おはようさん」と声をかけてくれる。

それほど早く起きんでも間に合うろう、だから昼間に眠たくなるのよと言うと「そう、ほんで孫がああ看板を描いたがよね。“おばあちゃん天向いて寝ゆうき、お客さんに起こしてもらわんと売れんやろ”やと。院長先生も起こしてくれたらえいのに、じいっと見て笑うばあじゃもの」と屈託がない。

入院中の患者さんが「おばちゃんにお菓子売ってやって言うたけど“アンタは糖尿やろ。看護婦さんから売られんと言われちゆうき、このお菓子は売らん”と言われてた」と頭をかく。なんと意外なストッパー、「だって、あの人はこないだ手術したばかりと自分で言いよったもの。具合が悪うなったら困るじゃいか」と、きっぱり。細かいコミュニケーションをとっているんだと驚かされる。病院の売店歴30年の観察眼と記憶力は、なかなか伊達ではない。

「けんどよ。おばちゃんも歳やきね。あちこち不具合が出てきたわね」しかしお店がある。病院の中とはいえ店を開けっ放しにしておくわけにはいかない。・・・でも心配ご無用。そんな時は馴染みの患者さんがかわりに店番に座る。「おばちゃん、早う診てもろうてきいや。店は見よっちゃおき」

今どき無いけどここでは当たり前、そんな人と人のあたたかい関わりが賑やかに繰り返されながら、午後3時、宮崎商店の1日が終わる。

機能的で便利な売店、は他の病院に行けば沢山あるでしょう。けれどかつての昭和の街並みにばかりとあったような懐かしい

店構えと「あ、もうこんな季節か」を感じられる場所。岡村病院の売店、宮崎商店はそんなお店です。もう30年以上かわらない、あったかい「おばちゃん」の笑顔がそこにありますよ。

営業時間 月～木 7:30～15:00
金 土 7:30～12:00

他院よりの見学 — 原田 敬 先生来院 —

平成26年4月17日 北九州市立八幡病院(福岡県)の原田敬先生が来院され、当院のエコー検査、ならびにエコーガイド下による血管治療等を見学されました。その後学



(写真右から3人目 原田 敬 先生)

術講演を行っていただき、スタッフも大変勉強になりました。特にエコー業務に携わっている検査室のスタッフは学ぶところが多かったようで、早速実践に活かそうと沢山の質問をして積極的に学んでいました。



15年ぶりに帰ってきて感じたこと

診療放射線技師 西嶋 英介

僕は高校卒業後関東へ上京していましたが、昨年家族とこの高知へ帰郷してきました。

帰郷して改めて感じたことがあります。それは、鰹だけではなく食物全般が美味しいこと、時間の流れがゆったりしていること、人と人の繋がりがあること、そして、よさこいの凄さでした。関東でもよさこい祭りが行われていましたが、帰郷して久しぶりによさこい祭りを見て、関東のものとは比べものにならないほど、迫力・熱気・臨

場感を肌を感じる事ができ、やっぱり本場は違うと魅了されてしまいました。

最初は何もない高知に帰郷して、嫁や子供達楽しく過ごしていけるかと心配していましたが、嫁も僕同様に高知の事を感じてくれており、家族の時間が増えたと喜び、子供達は子供達なりに楽しい事を見つけ、毎日楽しく過ごしています。今後は車を購入し色々な場所へ行き、もっと高知の良い所を家族と一緒に探したいと思います。

● ニューフェイス ●



岡林都子さん
3F 看護師
趣味：ショッピング
旅行



加形優子さん
外来看護助手
趣味：サーフィン



松本優子さん
3F 看護師
趣味：音楽鑑賞



小野亜莉紗さん
4F 看護師
趣味：旅行、カラオケ



高橋麻央さん
3F 看護師
趣味：DVD 鑑賞



吉村昌哲さん
外来看護師
趣味：釣り



依光美沙さん
3F 看護師
趣味：登山、旅行



内山幸美さん
4F 看護師
趣味：音楽鑑賞、旅行、
お笑いを見ること



小笠原藍香さん
4F 看護師
趣味：身体を動かすこと。
大抵負けるけど競争
等の遊びや勝負ごと。



桑名彩加さん
4F 看護師
趣味：散歩



深見淑子さん
3F 看護師
趣味：バレエ鑑賞



山本美和さん
4F 看護助手
趣味：これから見つけます



よろしくお願ひします。